

# 平成8年度の市内河川魚類生息状況調査結果

魚種		水域名		神崎川		淀川		寝屋川		大阪市内河川										大和川	総 匹 数	出 現 地 点 数
		河川名		神崎川 上流	神崎川 下流	淀川	新淀川	寝屋川	第二寝屋川	大川	堂島川	土佐堀川	安治川	安治川 河口	道頓堀川	尻無川	尻無川 河口	木津川	木津川 河口			
		地点No.	1	2	3	4	10	11	5	6	7	8	9	12	13	14	15	16	17			
純 淡 水 魚	コイ科	コイ	2		1									2					11	17 / 5		
		ゲンゴロウブナ	1							6									75	82 / 3		
		ギンブナ	9	12	3					17	23	23			5	2			227	321 / 9		
		キンギョ						1		1										2 / 2		
		合ベラ				2														2 / 1		
		フナ属																	26	26 / 1		
		シロヒレタビラ	1																	1 / 1		
		ハス	2		11					5										18 / 3		
		オイカワ	82		11					17					1				188	299 / 5		
		モツゴ	2											1					39	42 / 3		
		カワヒガイ	30		44					1										75 / 3		
		タモロコ			1														3	4 / 2		
		ゼゼラ			1															1 / 1		
		カマツカ	52		10														23	85 / 3		
		ニゴイ	24	1	20						1									46 / 4		
		コウライモロコ	246		81					3										330 / 3		
		ギギ科	ギギ							1										1 / 1		
		カダヤシ科	カダヤシ						31											31 / 1		
		メダカ科	メダカ																1	1 / 1		
		サンフィッシュ科	ブルーギル	5		3													4	12 / 3		
		ブラックバス	6		7														13 / 2			
	タイワンドジョウ科	カムルチー																1	1 / 1			
回 遊 魚	アユ科	アユ	12			19			2			1		1				5	40 / 6			
	ハゼ科	トヨシノボリ	1		3														4 / 2			
		チチブ				2													2 / 1			
汽 水 ・ 海 水 魚	ニシン科	サッパ				69								2	1	28	1	101	5 / 5			
		コノシロ										1	1						2 / 2			
	コチ科	マゴチ				6													6 / 1			
	スズキ科	スズキ	3	22		1,092				6		3	29		3	42	2	167	4,373 / 11			
	シマイサキ科	コトヒキ									1								1 / 1			
	ヒイラギ科	ヒイラギ				1				1									2 / 2			
	タイ科	クロダイ				2													2 / 1			
	ボラ科	ボラ	7	7		15					5		2		3	25		3	2	99	168 / 10	
		セスジボラ			13	8					2	1				3	1	3	1	32 / 8		
		メナダ	6	13		1				1	9	9	20		4	27	2	1		4	97 / 12	
		ボラ科稚魚				89					1	2	19	9	58			1		179 / 7		
	ハゼ科	ウロハゼ				29														29 / 1		
		マハゼ	1	2		95					7				1				2	108 / 6		
		ヒメハゼ				4														4 / 1		
		スジハゼ				1														1 / 1		
カレイ科	イシガレイ				41														41 / 1			
	マコガレイ				2														2 / 1			
地点別総匹数			492	70	198	1,476	0	32	53	57	36	46	39	75	63	46	38	173	710	3,604		
地点別魚種数			19	7	14	16	0	2	9	10	4	5	3	7	7	4	5	5	14	40		

注1：合ベラはゲンゴロウブナと他のフナ類との交雑種と考えられる。

注2：フナ属は種数には含めなかった。

注3：ボラ科稚魚と他のボラ科の魚種が同時に出現した場合、ボラ科稚魚は出現種数には含めなかった。